

STAR

ボールグリツパ

取扱説明書

製品コード	K49402
型式	MBG1031

製品コード	K49403
型式	MBG1231

製品コード	K49404
型式	MBG1531

**部品ご注文の際は、ネームプレートをお確かめの上、
部品供給型式を必ずご連絡下さい。**

“必読”機械の使用前には必ず読んでください。

株式会社IHIアグリテック

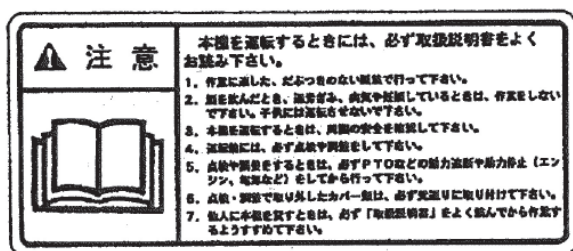
⚠ 安全に作業するために

安全に関する警告について

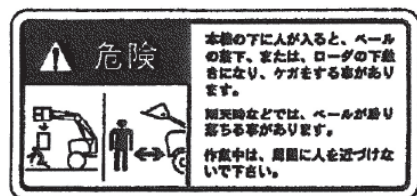
⚠印付きの警告マークは安全上、特に重要な項目を示しています。
警告を守り、安全な作業を行ってください。

- ⚠ 危険** その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
- ⚠ 警告** その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
- ⚠ 注意** その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれがあるものを示します。

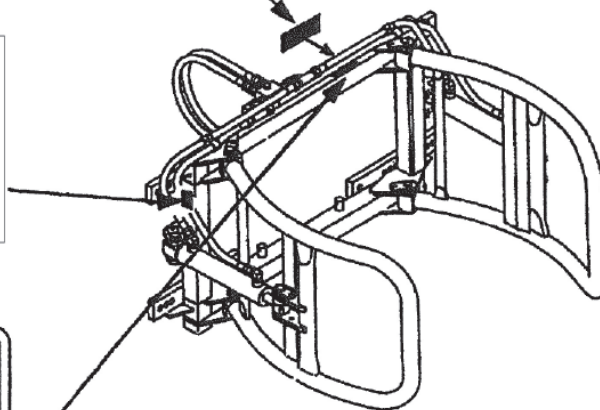
警告ラベルの貼り付け位置



部品番号 1064191000



部品番号 1064220000



— ラベルが損傷したときは —

警告ラベルは、使用者および周囲の作業員などへ危険を知らせる大切なものです。

ラベルが損傷したときは、すみやかに貼り替えてください。

注文の際には、この図に示す 部品番号 をお知らせください。

安全操作上の注意点

ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害を生じる恐れがあります。

作業前には、作業機およびトラクタの取扱説明書をよくお読みになり、十分に理解をしてからご使用ください。

作業前に

取扱説明書は製品に近接して保存を

▲ 注意

- 機械の取り扱いで分からない事があったとき、取扱説明書を製品に近接して保存していないため、自分の判断だけで対処すると思わぬ事故を起こし、ケガをする事があります。取扱説明書は分からない事があったときにすぐに取り出せるよう、製品に近接して保存してください。

取扱説明書をよく読んで作業を

▲ 注意

- 取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領の不十分な理解のまま作業すると、思わぬ事故を起こす事があります。作業を始めるときは、製品に貼付している警告ラベル、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項、取扱要領を十分に理解してから行ってください。

こんなときは運転しないでください

▲ 警告

- 体調が悪いとき、機械操作に不慣れな場合などに運転すると、思わぬ事故を起こす事があります。次の場合は、運転しないでください。
 - 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
 - 酒を飲んだとき。
 - 機械操作が未熟な人。
 - 妊娠しているとき。

服装は作業に適していますか

▲ 警告

- 作業に適さない服装で機械を操作すると、衣服の一部が機械に巻き込まれ、死亡を含む傷害をまねく事があります。次に示す服装で作業してください。

- 袖や裾は、だぶつきのないものを着用する。
- ズボンや上着は、だぶつきのないものを着用する。
- ヘルメットを着用する。
- はちまき、首巻きタオル、腰タオルなどはしない。

機械を他人に貸すときは

▲ 警告

- 機械を他人に貸すとき、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領が分からないため、思わぬ事故を起こす事があります。取扱い方法をよく説明し、取扱説明書を渡して使用前にはよく読むように指導してください。

機械の改造禁止

▲ 注意

- 機械の改造や、当社指定以外のアタッチメント・部品などを取り付けて運転すると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。機械の改造はしないでください。アタッチメントは当社指定製品を使用してください。部品交換するときは、当社が指定するものを使用してください。

始業点検の励行

▲ 警告

- 機械を使用するときは、取扱説明書に基づき始業点検を行い、異常箇所は必ず整備を行ってください。守らないと、機械の破損を引き起こすだけでなく、機械に巻き込まれる等の思わぬ事故により、死亡または重傷を負う危険性があります。

エンジン始動・発進するときは

▲ 警告

- エンジンを始動するとき、トラクタの横やステップに立ったまま行くと、緊急事態への対処ができず、運転者はもちろん周囲の人がケガをする事があります。運転席に座り、周囲の安全を確認してから行ってください。
- エンジンを始動するとき、主変速レバーを「N」（中立）にして行わないと、変速機が接続状態になっているため、トラクタが暴走し思わぬ事故を起こす事があります。主変速レバーを「N」（中立）にして行ってください。

- 室内で始動するとき、排気ガスにより中毒になる事があります。
窓、戸などを開け、十分に換気してください。

作業機を着脱するときは

⚠警告

- 作業機を脱着するためにトラクタを移動させるとき、トラクタと作業機の間如果有人がいたり、挟まれてケガをする事があります。トラクタと作業機の間を人に近づけないでください。

⚠注意

- グリッパの組み替えをするとき、トラクタのエンジンをかけたまま行くと第三者の不注意により、不意にトラクタが動いたり、フロントローダが動き、ケガをする事があります。トラクタのエンジンを止め、フロントローダの降下防止をしてから行ってください。
- バケットの取り外しをするとき、または、ベールグリッパの取り付けをするとき、トラクタのエンジンをかけたまま行くと、不意にトラクタが動いたり、フロントローダが動き、ケガをする事があります。トラクタのエンジンを止め、フロントローダの降下防止をしてから行ってください。
- 油圧配管の取り外しや取り付けをするとき、圧力がかかっていると、飛び出る高圧オイルあるいはフロントローダの急な下降で、ケガをする事があります。作業するのに都合の良い位置に降ろし、台などで降下防止をして、油圧配管に圧力がかからないようにして行ってください。
- 作業機をトラクタに脱着するとき、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意に動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。

公道走行時は作業機の装着禁止

⚠注意

- トラクタに作業機を装着して公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。トラクタに作業機を装着しての走行はしないでください。

移動走行するときは

⚠危険

- 移動走行するとき、トラクタのブレーキペダルが左右連結されていないと、片ブレーキになり、トラクタが左右に振られ横転などが起こり、思わぬ事故をまねく事があります。ほ場での特殊作業以外は、ブレーキペダルは左右連結して使用してください。

⚠警告

- トラクタに運転者以外の人を乗せると、トラクタから転落したり、運転操作の妨げになって、緊急事態への対処ができず、同乗者はもちろん、周囲の人および運転者自身がケガをする事があります。トラクタには、運転者以外の人を乗せないでください。
- 急制動・急旋回を行うと、運転者が振り落とされたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ事故を起こす事があります。急制動・急旋回はしないでください。
- 坂道・凹凸地・急カーブで速度を出しすぎると、転倒あるいは転落事故を起こす事があります。低速走行してください。
- 側面が傾斜していたり、側溝がある通路で路肩を走行すると転落事故を起こす事があります。路肩は走行しないでください。
- 高低差が大きい段差を乗り越えようとすると、トラクタが転倒あるいは横転し、ケガをする事があります。あゆみ板を使用してください。
- 作業機を下に降ろした状態で移動走行すると、障害物などにぶつかったり、周囲の人に追突し、ケガをする場合があります。移動走行する場合は、持ち上げて行ってください。

作業中は

作業するときは

⚠ 危険

- 作業機、フロントローダの下で歩いたり作業しないでください。
- 第三者が近くにいることを確認してください。

守らないと、下敷きになり、死亡または重傷を負うことになります。

⚠ 警告

- 作業をするとき、周囲に人を近づけると、機械の下敷きや追突などにより、ケガをする事があります。

周囲に人を近づけないでください。

- 傾斜地で速度を出しすぎると、暴走事故をまねく事があります。

低速で作業してください。

下り作業をするとき、坂の途中で変速すると、暴走する原因となります。

坂の前で低速に変速して、ゆっくりとおりてください。

- わき見運転をすると、周囲の障害物の回避や周囲の人への危険回避などができず、思わぬ事故を起こす事があります。

前方や周囲へ、十分に注意を払いながら運転してください。

- 手放し運転をすると、思わぬ方向へ暴走し、事故を起こす事があります。

しっかりとハンドルを握って運転してください。

- ハウス内などの室内作業をするとき、排気ガスにより中毒になる事があります。

窓、戸などを開け、十分に換気してください。

⚠ 注意

- 機械の調整や、付着物の除去などを行うとき、エンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。

エンジンをとめてから行ってください。

トラクタから離れるときは

⚠ 警告

- トラクタから離れるとき、傾斜地や凹凸地などに駐車すると、トラクタが暴走して思わぬ事故を起こす事があります。

平坦で安定した場所に駐車し、トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけて暴走を防いでください。

- トラクタから離れるとき、作業機をあげたままにしておくと、第三者の不注意により、不意に降下し、ケガをする事があります。

下限まで降ろしてからトラクタを離れてください。

作業が終わったら

機体を清掃するときは

⚠ 注意

- エンジンを切らずに、付着物の除去作業などを行うと、第三者の不注意により、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こす事があります。

エンジンをとめてから行ってください。

終業点検の励行

⚠ 注意

- 作業後の点検を怠ると、機械の調整不良や破損などが放置され、次の作業時にトラブルを起こしたり、ケガをする事があります。

作業が終わったら、取扱説明書に基づき点検を行ってください。

- フロントローダを持ち上げて点検・調整を行うとき、第三者の不注意により、不意に降下し、ケガをする事があります。


フロントローダの油圧回路をロックして行ってください。

不調処置・点検・整備をするとき

⚠ 注意

- 機械に異常が生じたとき、そのまま放置すると、破損やケガをする事があります。
取扱説明書に基づき行ってください。
- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出して、ケガをする事があります。
平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- エンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意にトラクタが動いたり、フロントローダが昇降し、ケガをする事があります。
エンジンをとめ、フロントローダの油圧回路をロックして行ってください。
- 作業機をあげた状態のまま下にもぐったり、足を入れたりすると、不意に降下し、ケガをする事があります。
下に入るときは、フロントローダの油圧回路をロックして行ってください。
- 油圧の継手やホースに、ゆるみや損傷があると、飛び出る高圧オイルあるいは作業機の急な降下で、ケガをする事があります。
補修もしくは部品交換してください。
- 油圧システムの補修や部品交換をするとき、圧力がかかっていると、飛び出る高圧オイルで、ケガをする事があります。
平坦な場所に作業機をおろし、エンジンをとめて行ってください。

も く じ

	安全に作業するために
	安全に関する警告について …… 1
	作業前に …… 2
	作業中は …… 4
	作業が終わったら …… 4
	不調処置・点検・整備をするとき …… 5

1	フロントローダへの装着
	1 各部の名称とはたらき …… 8
	2 組立部品 …… 9
	1. 解梱 …… 9
	2. 組立部品の明細 …… 9
	3 フロントローダへの取付 …… 9
	1. フロントローダの バケット取外し …… 9
	2. フロントローダへの取付 …… 9
	4 油圧ホースの取付 …… 9

2	運転を始める前の点検
	1 運転前の点検 …… 11
	1. トラクタ各部の点検 …… 11
	2. フロントローダの点検 …… 11
	3. フロントローダへの 取付部点検 …… 11
	4. ベールグリップ本体の点検 …… 11
	2 エンジン始動での点検 …… 11
	1. フロントローダ油圧系統に 異常はないか …… 11
	2. ベールグリップ油圧系統に 異常はないか …… 11
	3 給油箇所一覧表 …… 12

3	作業の仕方
	1 本製品の使用目的 …… 13
	2 作業要領 …… 13
	1. 片開き作業をするときは …… 13
	2. 作業要領 …… 13

4	作業が終わったら
	1 作業後の手入れ ……14
	2 フロントローダからの切り離し ……14
	3 長期格納するとき ……14

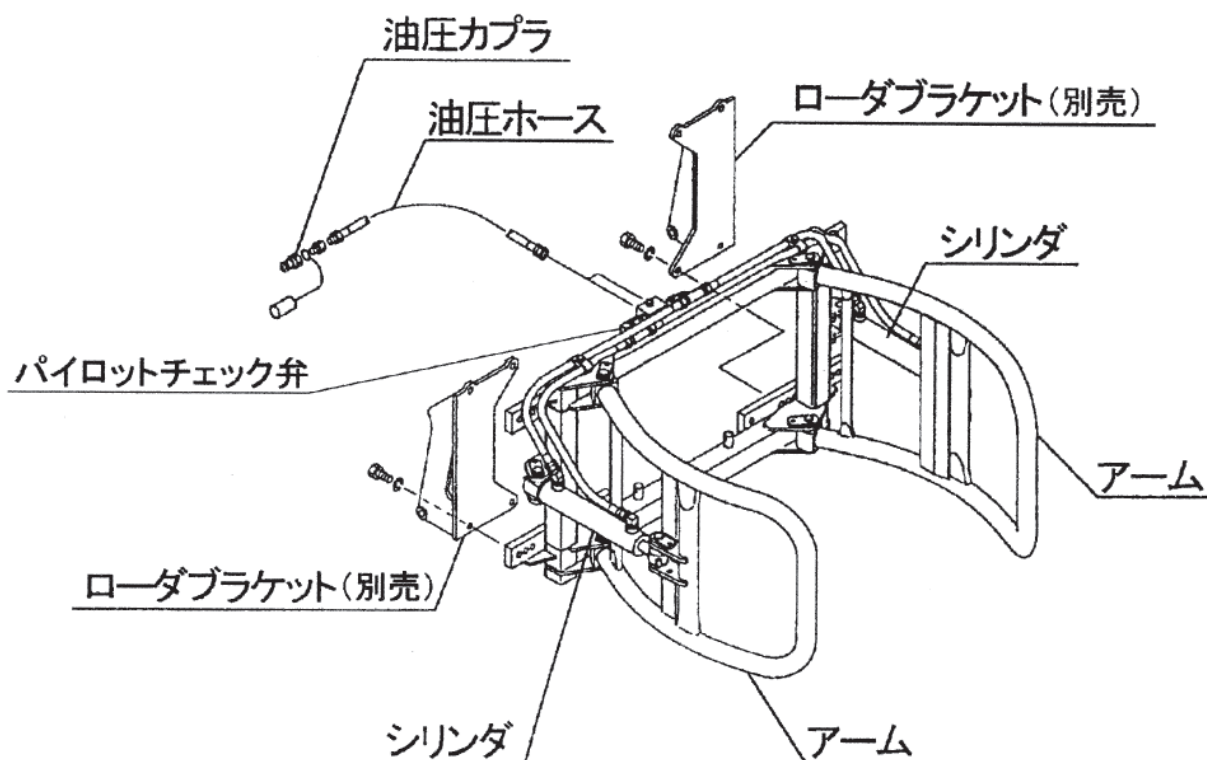
5	点検と整備について
	1 点検整備一覧表 ……15

6	不調時の対応
	1 不調処置一覧表 ……16

1 フロントローダへの装着

適切な装着で安全な作業をしましょう。

1 各部の名称とはたらき



- 1. ベールグリッパ**
ロールベールをクランプして積み込みや運搬を行う機械の総称です。
フロントローダに装着して使用します。
- 2. ローダブラケット (別売)**
ベールグリッパをフロントローダに装着するためのアダプタです。
- 3. アーム**
ロールベールをクランプするのに使用します。
- 4. シリンダ**
油圧力でアーム (グリッパ) を動かして、ロールベールをクランプするのに使用します。
- 5. パイロットチェック弁**
ロールベールをアームでクランプしたとき、リークによるクランプのゆるみ防止に使用します。
- 6. 油圧ホース**
シリンダに圧力を伝えるのに使用します。
- 7. 油圧カプラ**
ワンタッチで接続・切り離しができる油圧継手です。

2 組立部品

1. 解梱

木枠に固定している部品をほどいてください。

2. 組立部品の明細

- (1) 同梱されている梱包明細に基づき、必要部品が揃っているか確認してください。
- (2) 組立に必要なボルト・ナット類は、梱包明細のボルト・ナット類の備考欄に「使用する部品の符号」を記載しています。組立に際しては、参照してください。

3 フロントローダへの取付

1. フロントローダのバケット取外し

▲ 注意

- バケットや油圧配管の取外しをするとき、トラクタのエンジンをかけたまま行くと、第三者の不注意により、不意にトラクタが動いたり、フロントローダが動き、ケガをする事があります。トラクタのエンジンをとめて行ってください。
- 油圧配管の取外しをするとき、圧力がかかっていると、飛び出る高圧オイルあるいはフロントローダの急な降下で、ケガをする事があります。作業するのに都合の良い位置に降ろし、台などで降下防止をして、油圧配管に圧力がかからないようにして行ってください。

- (1) フロントローダを作業するのに都合の良い位置に降ろし、台などで降下防止をして、油圧配管に圧力がかからないようにしてください。
- (2) フロントローダのバケットを回動させている油圧配管を取り外してください。
- (3) フロントローダのバケット部分をフロントローダから取り外してください。

2. フロントローダへの取付

▲ 注意

- ベールグリッパや油圧配管の取り付けをするとき、トラクタのエンジンをかけたまま行くと、第三者の不注意により、不意にトラクタが動いたり、フロントローダが動き、ケガをする事があります。トラクタのエンジンをとめて行ってください。

- (1) フロントローダの取付部に、梱包からほどいたベールグリッパ本体を近づけてください。このとき、ベールグリッパ本体のフレームは地面に対して、垂直になるように立ててください。
- (2) フロントローダから取り外したバケット取付部に合わせて、ローダブラケットをベールグリッパ本体に対して、左右対称になるようにM20のボルトで仮締めしてください。ローダブラケットの種類によってグリッパ本体への取付穴が異なります。
- (3) フロントローダがローダブラケットからスムーズに着脱できることを確認したら、M20ボルトを増し締めしてください。

4 油圧ホースの取付

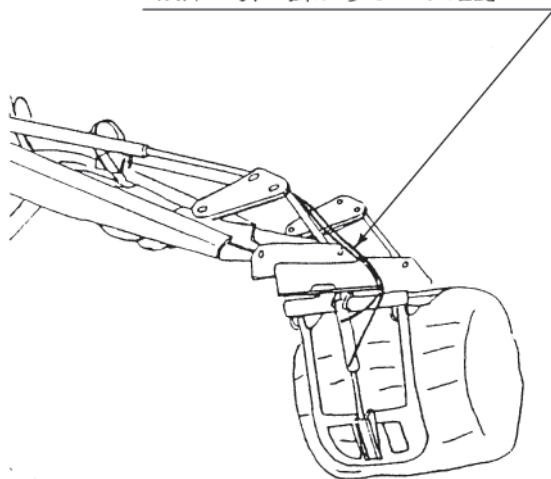
▲ 注意

- 油圧ホースの取り付けをするとき、トラクタのエンジンをかけたまま行くと、第三者の不注意により、不意にトラクタが動いたり、フロントローダが動き、ケガをする事があります。トラクタのエンジンをとめて行ってください。

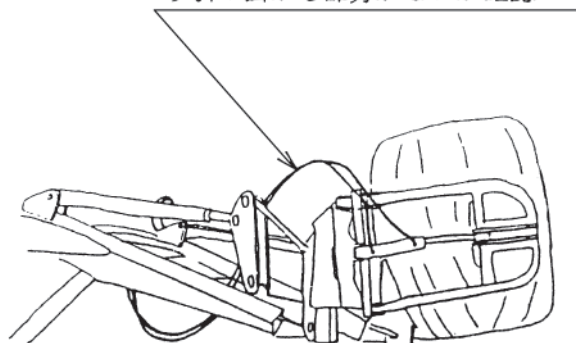
1. 油圧カプラをフロントローダ部油圧取出口に接続してください。
2. トラクタのエンジンを始動し、フロントローダアームを上下させ、油圧ホースが異常に張る箇所がないことを確認してください。異常に張る箇所があれば、トラクタのエンジンをとめ、張る箇所のホースを伸ばしてください。

3. ベールグリップ本体を首振りさせ、油圧ホースが異常に張る箇所や、ベールグリップ本体に引っかかる所がないか確認してください。
特に、ベールグリップを下げたときに異常に張る箇所がないか確認してください。異常に張る箇所があれば、トラクタのエンジンをとめ、張る箇所のホースを伸ばしてください。
4. フロントローダを降ろし、トラクタのエンジンをとめて、仮止めしていたインシュロックをしっかり締めて、油圧ホースを固定してください。
5. トラクタのエンジンを始動し、ベールグリップのシリンダを作動させ、グリップを2～3回クランプさせて、シリンダ内のエア抜きをしてください。

油圧ホースが異常に張らないか又
機体に引っ掛からないか確認



油圧ホースがローダ部に挟まったり
引っ掛かる部分がないか確認



<ハイレックキット装備のフロントローダに 装着するとき>

1. ベールグリップ本体から出ている油圧ホースの最初の油圧カプラをハイレックキットに直接つないでください。
2. 接続金具のサイズや油圧ホースの長さが適合しているか確認してください。
3. サイズちがいや長さが短いときは、サイズに適合するアダプタを取り付け、ホースを延長してください。
4. 油圧ホースを取り付けた後に、ベールグリップ本体をゆっくりと首振りし、引っかかりや異常に張る箇所を解消してください。

2 運転を始める前の点検

機械を調子よく長持ちさせるため、作業前に必ず行いましょう。

1 運転前の点検

1. トラクタ各部の点検

トラクタの取扱説明書に基づき、点検を行ってください。

2. フロントローダの点検

フロントローダの取扱説明書に基づき、点検を行ってください。

3. フロントローダへの取付部点検

(1) ローダブラケット取付ボルトにゆるみはないか。

不具合が見つかったときは増し締めしてください。

(2) フロントローダへの取付部は、確実に取り付いているか。

不具合が見つかったときは、「1-3-2 フロントローダへの取付」の説明に基づき不具合を解消してください。

4. ベールグリッパ本体の点検

(1) 各部の取り付けボルト類にゆるみはないか。

不具合が見つかったときは増し締めしてください。

(2) 各部の給油は十分か。

不具合が見つかったときは「2-3 給油箇所一覧」に基づき給油してください。

(3) 損傷部品はないか。

不具合が見つかったときは損傷部品を交換してください。

2 エンジン始動での点検

1. フロントローダ油圧系統に異常はないか

トラクタのエンジンを始動し、フロントローダを昇降させて途中で保持したとき、降下がなければ異常はありません。

ベールグリッパの首振り作動がスムーズに動けば異常はありません。

不具合が見つかったときは、トラクタおよびフロントローダの取扱説明書に基づき不具合を解消してください。

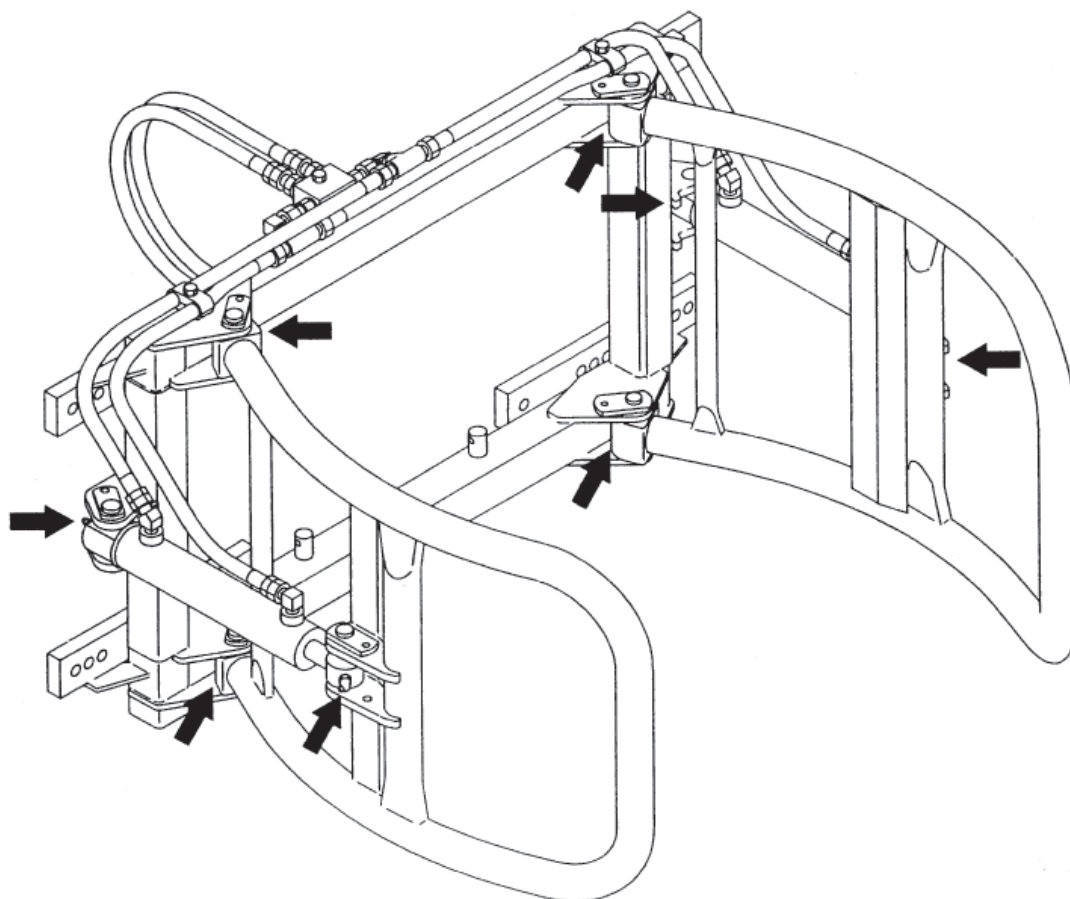
2. ベールグリッパ油圧系統に異常はないか

ベールグリッパのシリンダを作動させて、スムーズにアームが作動すれば異常ありません。

不具合が見つかったときは、「6-1 不調処置一覧表」の説明に基づき不具合を解消してください。

3 給油箇所一覧表

- 給油、塗布するオイルは清浄なものを使用してください。
- グリースを給脂する場合、適量とは古いグリースが排出され、新しいグリースが出るまでです。



065-0012-1007

給油場所	個所	潤滑油の種類	交換時期	量
アーム支点	4	※1 集中給油 グリース 4種;2号	使用毎	適量
シリンダ支点	4	〃	〃	〃

※1 IDEMITSU「ダフニー エポネックス SR No.2」又は相当品をお使いください。

3 作業の仕方

安全を確認して、慎重に作業してください。

1 本製品の使用目的

ロールベアラで梱包されたベール、あるいはラッピングマシンでラッピングしたベールの積み込み作業に使用します。

グリップできるベールの直径は次の通りです。

	両開き作業	片開き作業
MBG1031	80 ~ 110cm	100 ~ 110cm
MBG1231	100 ~ 120cm	120cm
MBG1531	120 ~ 160cm	150 ~ 160cm

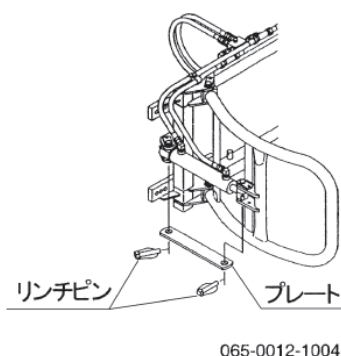
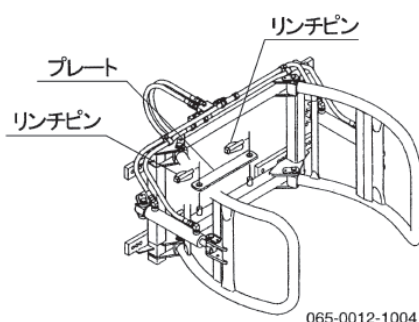
2 作業要領

本製品は、両開き作業と片開き作業が出来ます。

1. 片開き作業にするときは

片開き作業にするときは、以下の手順で固定する側のアームのシリンダをロックしてください。

- (1) リンチピンを抜いて、プレートを外してください。
- (2) 固定する側のアームのシリンダ支点のピンにプレートを取り付け、リンチピンを差し込んでください。

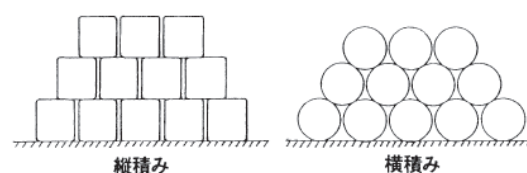


2. 作業要領

⚠ 危険

- 作業中は、作業機、フロントローダの下で歩いたり作業しないでください。
- 作業中は第三者が近くにいることを確認してください。
守らないと、下敷きになり、死亡または重傷を負うことがあります。

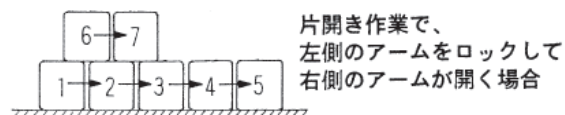
本作業機は、ベールの径をグリップする方式なので縦積み、横積みのいずれにも対応できます。



取扱い上の注意

- ロールを積み重ねるとき、重ねすぎると下部のロールが変形し荷くずれを起こす事があります。積み重ねは、3段以下にしてください。ラッピングマシンでラップしたロールは、縦積みにした方がラッピングフィルムの気密性が保ちやすくなります。高品質のサイレージを作るためには、縦積みを推奨します。

積み込みをするときは、両開き作業の場合は、左右どちらからでも積み込めます。左側のアームをロックして、右側のアームが開く場合は、積み込みは左側から右側へ行ってください。



取扱い上の注意

- ベールをグリップして長距離走行すると、ベールの変形などにより、落下する可能性があります。作業方法を工夫してできる限り、短距離の走行になるようにしてください。やむをえず、長距離走行するときは、ベールグリップを下げ、低速で走行し周囲には人を近づけないでください。また、短距離、長距離を問わず、ロールをグリップしての作業は、ほ場内または厩舎などの施設内にとどめてください。

4 作業が終わったら

長持ちさせるために、手入れは必ずしましょう。

1 作業後の手入れ

▲ 注意

- トラクタのエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意にトラクタが動いたり、フロントローダが昇降し、ケガをすることがあります。
トラクタのエンジンをとめ、フロントローダの油圧回路をロックして行ってください。

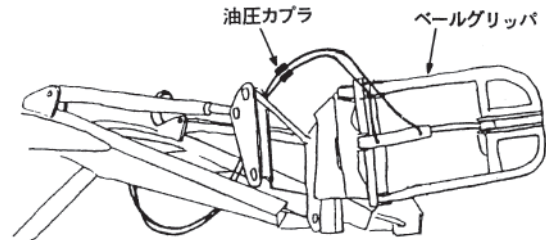
1. 機械の上にかかっている草や稲わらなどは、ほ場の中できれいに取り除いてください。
2. ボルト・ナット・ピン類のゆるみや脱落はないか確認してください。
ゆるみがあれば、増し締めしてください。
脱落があれば、部品表を見て指定するもの（サイズ、強度など）を購入し、速やかに取り付けてください。
3. 破損部品はないか確認してください。
破損部品があれば、速やかに部品交換してください。
4. 油圧系統（ベールグリッパ）の継手部に油もれはないか、シリンダ・パイロットチェック弁・油圧ホースに破損はないか確認してください。
油もれがあれば、その箇所を取り外し、シールテープを巻き直して、再度取り付けてください。
シリンダなどの破損があれば、速やかに部品交換してください。
5. 各部の給油箇所は、「2-3 給油箇所一覧表」に基づき給油してください。

2 フロントローダからの切り離し

▲ 注意

- トラクタのエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意にトラクタが動いたり、フロントローダが昇降し、ケガをすることがあります。
トラクタのエンジンをとめ、フロントローダの油圧回路をロックして行ってください。

1. フロントローダを下げ、ベールグリッパを接地させてください。
2. トラクタのエンジンをとめ、フロントローダの油圧回路をロックしてください。
3. 油圧カプラを切り離してください。



4. 油圧カプラにカプラキャップを取り付けてください。
5. ベールグリッパ本体をフロントローダの接続部から外してください。
接続部は、フロントローダにより構造がちがいます。それぞれの機種取扱説明書に基づいて取り外してください。

3 長期格納するとき

1. 機体各部の清掃をしてください。
2. 摩耗した部品、破損した部品は、交換してください。
3. 「2-3 給油箇所一覧表」に基づき、油脂を補給してください。
回動支点およびフロントローダ取付部には、注油してください。
4. 塗装損傷部は、補修塗装または油を塗布し、さび防止をしてください。
5. 格納は、風通しのよい屋内に保管してください。

5 点検と整備について

調子よく作業するために、定期的に行いましょう。
機械の整備不良による事故などを未然に防ぐために、「点検整備一覧表」に基づき、各部の点検・整備を行い、機械を最良の状態で、安心して作業が行えるようにしてください。

▲ 注意

- トラクタのエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意にトラクタが動いたり、フロントローダが昇降し、ケガをする事があります。
トラクタのエンジンをとめ、フロントローダの油圧回路をロックして行ってください。
- 油圧システムの補修や部品交換をするとき、圧力がかかっていると、飛び出る高圧オイルで、ケガをする事があります。
平坦な場所に作業機をおろし、エンジンをとめて行ってください。

1 点検整備一覧表

時 間	項 目	処 置
使 用 毎	機械の清掃 部品脱落・破損部 各部のボルト・ナットのゆるみ 各部の給油 油圧継手からの油もれ	取付、部品交換 増し締め 「2-3 給油箇所一覧表」に基づき給油 シールテープを巻き、再取付

6 不調時の対応

エンジンをとめてから処置してください。

⚠ 注意

- トラクタのエンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により、不意にトラクタが動いたり、フロントローダが昇降し、ケガをする事があります。
トラクタのエンジンをとめ、フロントローダの油圧回路をロックして行ってください。
- 油圧系統の補修や部品交換をするとき、圧力がかかっていると、飛び出る高圧オイルで、ケガをする事があります。
平坦な場所に作業機をおろし、エンジンをとめて行ってください。

1 不調処置一覧表

症 状	原 因	処 置
グリッパのアームが作動しない	フロントローダ部油圧取出回路がロックされている	取扱説明書に基づき、ロックを解除する
	油圧カプラが接続されていない	接続する
	パイロットチェック弁の不良	部品交換する
	シリンダがプレートでロックされている	プレートを外す
アームのグリッパが悪い または、グリッパした ベールが落下する	ベール径サイズのちがうグリッパで作業している (例 MBG1231 でベール径 90cm をグリッパしている)	ベール径に合ったグリッパを使う
	片開き作業で、小さいベールをグリッパしている (例 MBG1231 の片開き作業でベール径 100cm をグリッパしている)	片開き作業では、小さいベールはグリッパ出来ません 両開き作業をしてください
	パイロットチェック弁の不良	部品交換
	雨や露にあたった直後に作業している	すべりやすくなります 雨や露の直後はできるだけ作業をさけてください

原因や処置のしかたがわからない場合は、下記事項とともに購入先にご相談ください。

1. 製品名
2. 部品供給型式 (型式)
3. 製造番号
4. 故障内容 (できるだけ詳しく)

調 整

S - 2 4 0 5 3 1 G

千 歳 本 社 066-8555 千 歳 市 上 長 都 1 0 6 1 番 地 2
TEL 0123-26-1123
FAX 0123-26-2412

千 歳 営 業 所 066-8555 千 歳 市 上 長 都 1 0 6 1 番 地 2
TEL 0123-22-5131
FAX 0123-26-2035

豊 富 営 業 所 098-4100 天 塩 郡 豊 富 町 字 上 サ ロ ベ ッ 1 1 9 1 番 地 4 4
TEL 0162-82-1932
FAX 0162-82-1696

帯 広 営 業 所 080-2462 帯 広 市 西 2 2 条 北 1 丁 目 1 2 番 地 4
TEL 0155-37-3080
FAX 0155-37-5187

中 標 津 営 業 所 086-1152 標 津 郡 中 標 津 町 北 町 2 丁 目 1 6 番 2
TEL 0153-72-2624
FAX 0153-73-2540

花 巻 営 業 所 028-3172 岩 手 県 花 巻 市 石 鳥 谷 町 北 寺 林 第 1 1 地 割 1 2 0 番 3
TEL 0198-46-1311
FAX 0198-45-5999

仙 台 営 業 所 984-0032 宮 城 県 仙 台 市 若 林 区 荒 井 5 丁 目 2 1 - 1
TEL 022-353-6039
FAX 022-353-6040

小 山 営 業 所 323-0158 栃 木 県 小 山 市 梁 2 5 1 2 - 1
TEL 0285-49-1500
FAX 0285-49-1560

東 海 営 業 所 485-0081 愛 知 県 小 牧 市 横 内 字 立 野 6 7 8 - 1
TEL 0568-75-3561
FAX 0568-75-3563

岡 山 営 業 所 700-0973 岡 山 県 岡 山 市 北 区 下 中 野 7 0 4 - 1 0 3
TEL 086-243-1147
FAX 086-243-1269

熊 本 営 業 所 861-8030 熊 本 県 熊 本 市 東 区 小 山 町 1 6 3 9 - 1
TEL 096-389-6650
FAX 096-389-6710

都 城 営 業 所 885-1202 宮 崎 県 都 城 市 高 城 町 穂 満 坊 1 0 0 3 - 2
TEL 0986-53-2222
FAX 0986-53-2233